

胃ろう患者における 地域連携への取り組み

—群馬県でのNSTとPDNの活動—

前橋赤十字病院
小川哲史

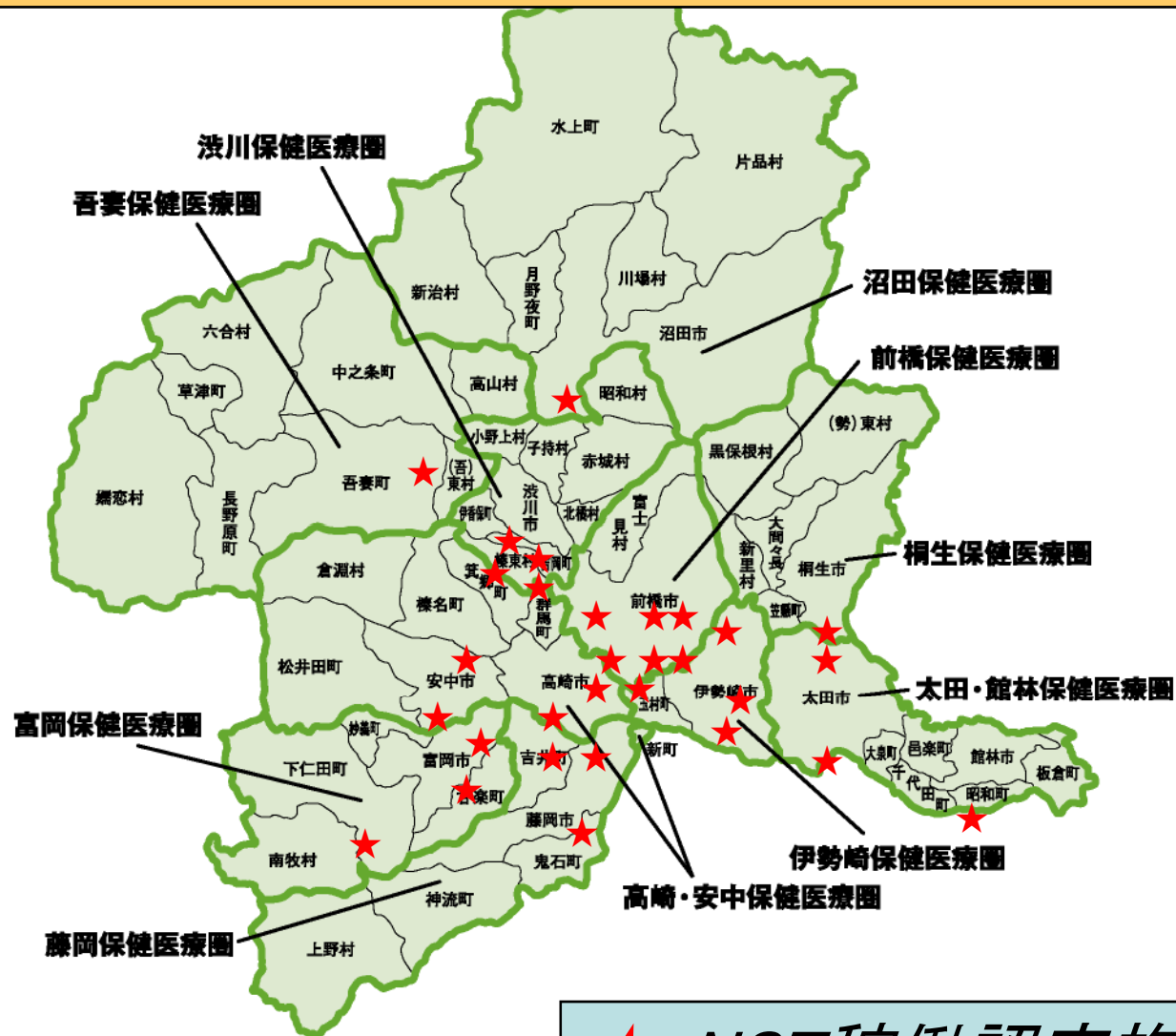
- 群馬県内のNST活動

NSTとは

栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施することをNutrition Support(栄養サポート)といい、この栄養サポートを**医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などの多職種で実践する集団(チーム)**をNST(Nutrition Support Team;栄養サポートチーム)という。

日本栄養療法推進協議会(JCNT)

2次保険医療圏内の稼働30施設



★:NST稼働認定施設

NST活動における県内の共通認識

- 栄養療法は一つの病院だけの取り組みでは不可能で継続することが重要。
- 県内全域でNSTの活動が活発で、各医療圏のほとんどの中核病院でNSTが稼働しているが、各地域内の連携は不十分。
- 医療機能の専門化・分化が進み、お互いのレベル・医療環境に大きな較差があり、その違いを理解していない。
 - 医療保険と介護保険の違い、2つの保険の混在。
 - 夜間を含めた看護師等の医療者数など。

地域一体型のNST(地域完結型の栄養管理ネットワーク)の確立が必要！

連携開始への確認

- 医療従事者の知識とスキルアップが前提。
- ネットワークの基本的な単位は2次医療圏が最適で、患者個々に必要な機能により近隣医療圏も含める。
- お互いの医療環境を理解する。

NPO法人 PDN

(PEGドクターズネットワーク)

- 活動理念

患者と家族を孤立させてはならない！

- 目的

- ・胃ろうの正しい適応
- ・安全な手術・交換,
- ・責任ある長期包括ケア

- 2001年4月に設立
- 理事長:鈴木 裕, 事務局長:二宮英温.

PDN群馬の活動

目的

群馬NST研究会とタイアップし、正しい栄養療法に基づいた、PEG患者と家族に対するネットワークの確立。

- 県内10の2次保健医療圏単位で、順次セミナーを開催。
第1回：知識の向上と共有化のための講義中心。
第2回：PEG管理の実技（半固形化、簡易懸濁法など）中心。
現在、各医療圏単位の「胃ろうネットワーク」を構築中。

PDNセミナーの開催

2006.4～2007.6に、県内10の2次保健医療圏で、
医療従事者の知識の向上を目的に開催。

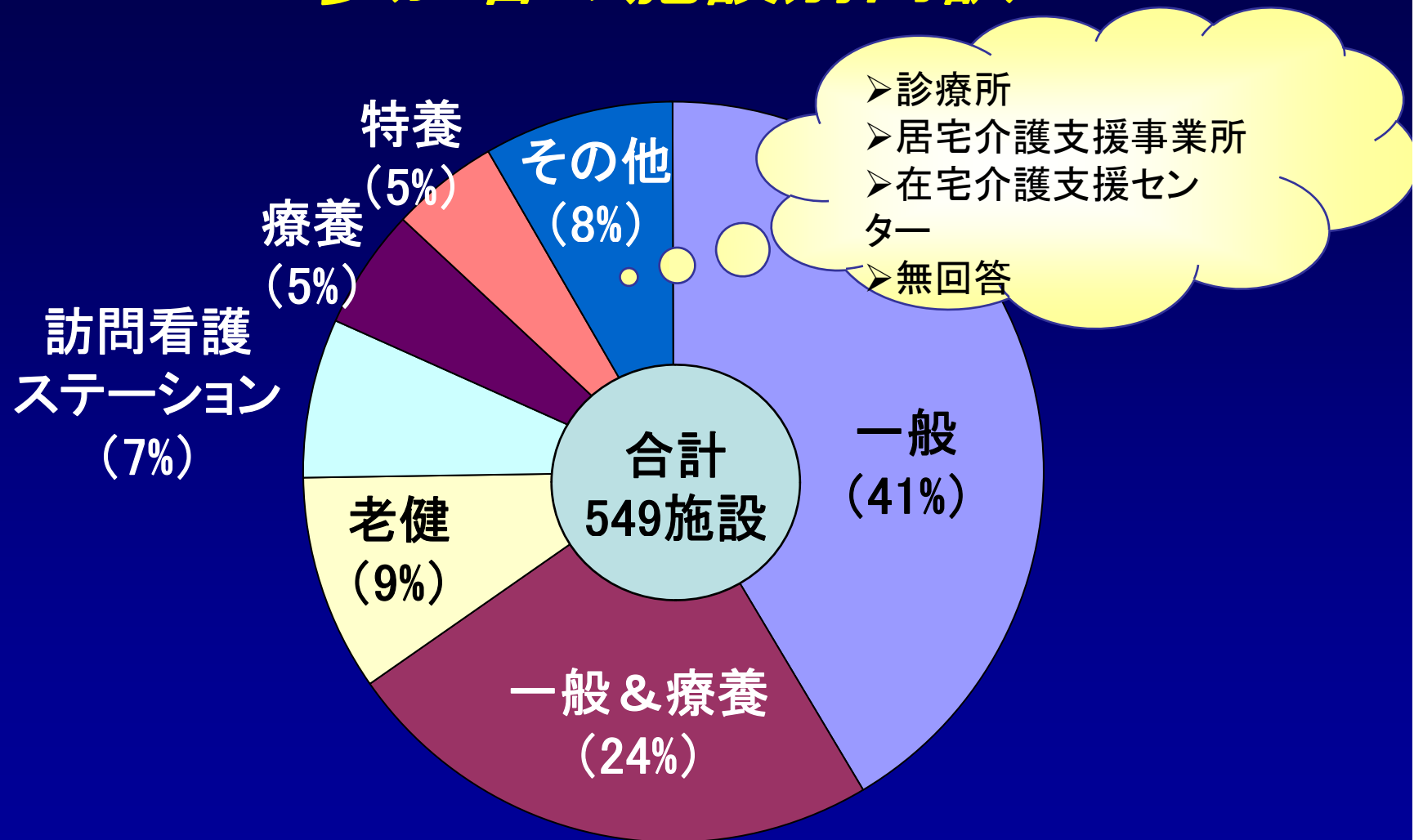
内容（各医療圏での第1回目）

1. PEGの適応と手技
2. PEGの管理
3. NSTと栄養療法の基本
4. お悩み相談コーナー

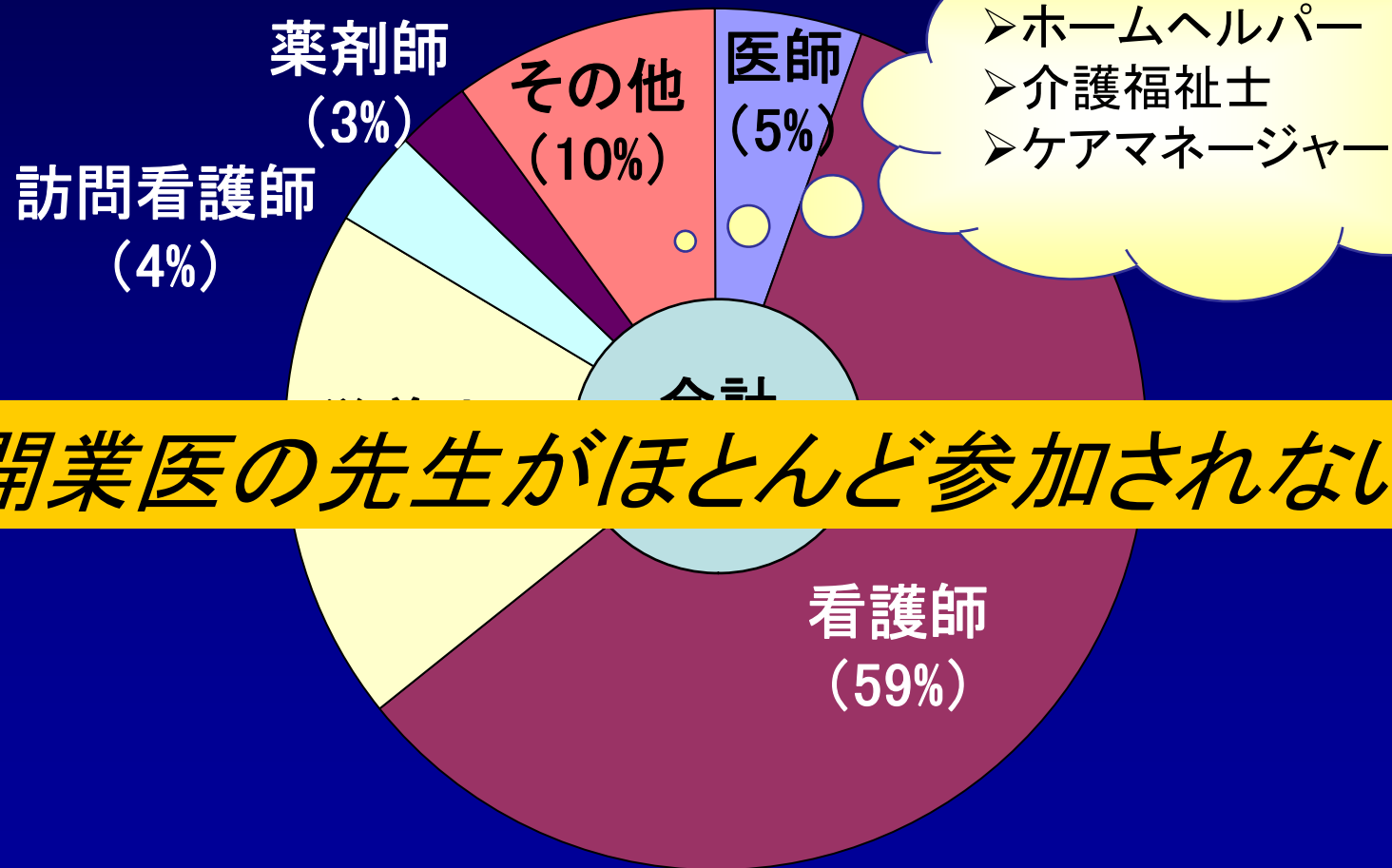
全10回で 830名が参加。



参加者の施設別内訳



参加者の職種別内訳



PDNセミナー（実技中心）

医療従事者のスキルの向上を目的に、
沼田医療圏から開始（2007年9月～）

PEGの造設前の管理から造設後の管理・見分け方
経腸栄養ポンプの使い方
簡易懸濁法の実施
注入時、注入後のトラブル
経腸栄養剤の固形化



前橋 PDN市民公開講座 (2008.3.15)

「まんなかだあ〜れ？」

- ・基調講演； PDN理事長； 鈴木 裕 先生
厚労省医政局； 伊東芳郎 先生

- ・パネルディスカッション
「まんなかだあ〜れ？」

群馬県内の医療従事者

- ・特別講演； 岡田晋吾 先生

前橋 PDN市民公開講座 パネルディスカッション

各医療圏での連携への具体的な取り組み

- 各医療圏単位のPDN実技セミナーを継続する。
- 連携に参加する各施設の機能と特徴、窓口と連絡法などを記載したネットワーク図、手引書を作成する。
- 地域連携パスや評価シートなど共通のアイテムを作成する。

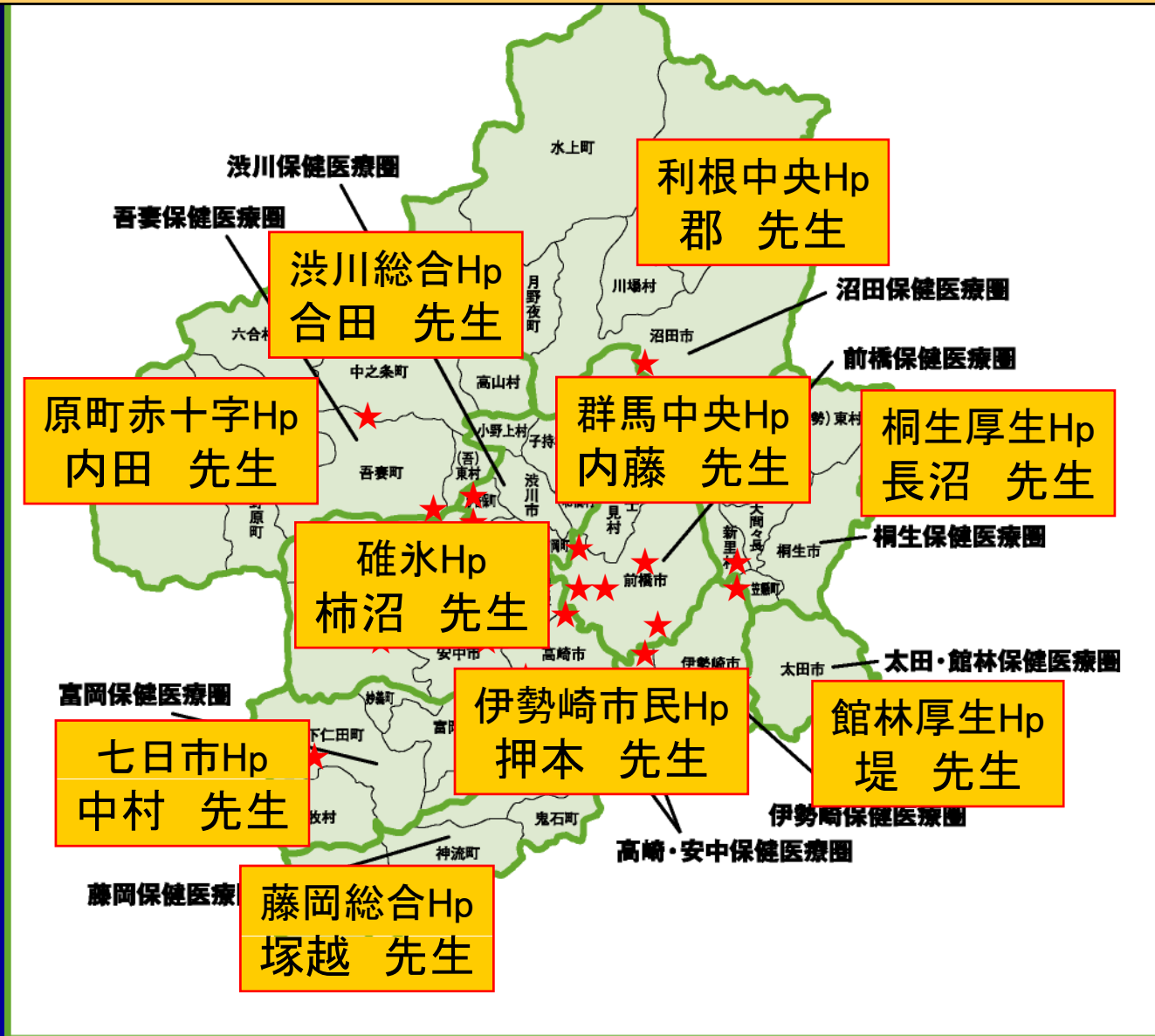
患者・家族、市民の参加は10数名。

県内の医療圏単位での 連携への取り組み

群馬県での連携への取り組み

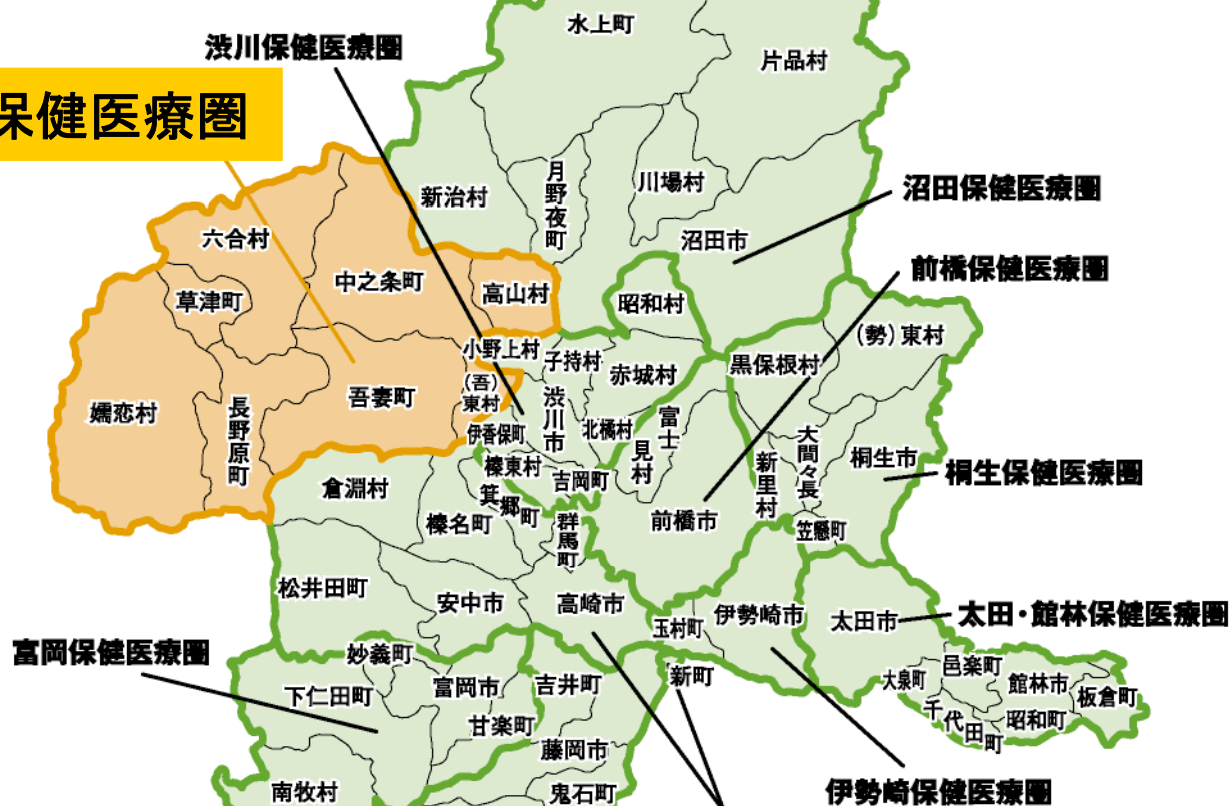
- 前橋、吾妻、沼田医療圏でネットワークを進め、それをモデルに各医療圏の実状に沿ったネットワークを構築する。
- 地域連携パス、ネットワーク図、手引書など連携に用いる共通のツールを作成する。
- 全医療圏で実技セミナーを開催し、コメディカルのエキスパート(インストラクター)を養成する。
- 患者や住民に分かりやすい各医療圏毎のネットワークのホームページを開設する。
- 各ネットワークへの経済的援助。
- 県内全域で定期的な集まりを開く(2009年, 群馬胃ろうネットワーク研究会(仮称)を発足予定)。

医療圏ごとの連携ネットワークの世話人



吾妻医療圏

吾妻保健医療圏



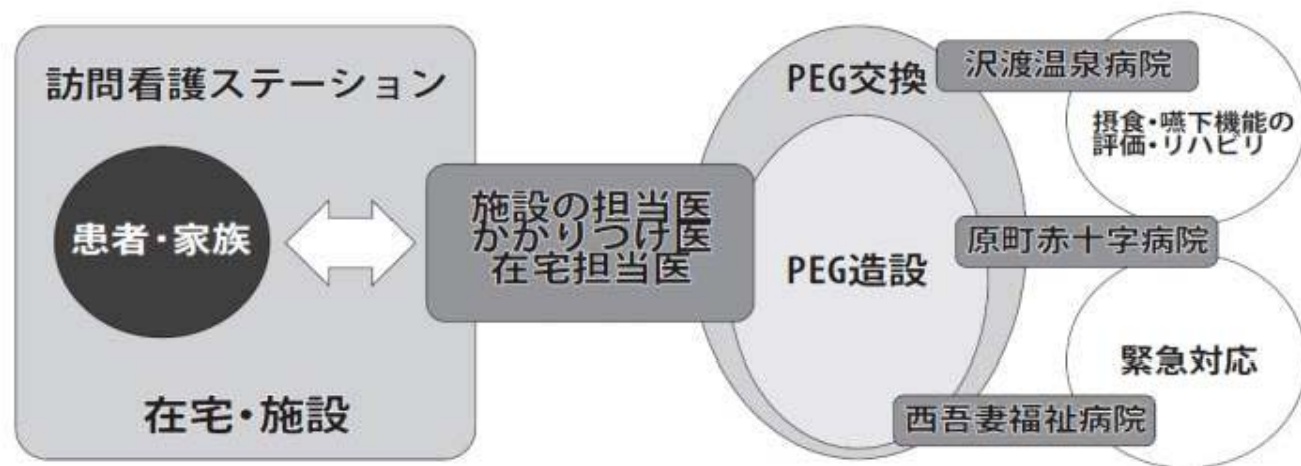
県の北西部、山間部に位置し、人口; 7万人)。急性期中核病院は2病院。高齢・過疎化が進む

吾妻医療圏

NST



吾妻胃ろうネットワーク図



構築



胃ろうエキスパート養成へ向けて

- 各医療圏の連携における中心的・コメディカルの育成
- 資格、教育内容の統一、システム化
- NST専門療法士の資格が基本的条件
- 各医療圏で約10名、県内で100名ほど
- 患者・介護者の指導を行う

教育実習プログラム (群馬県インストラクター100人養成講座)



前橋医療圏での 胃ろう患者連携への取り組み

「前橋胃ろうネットワーク」の設立

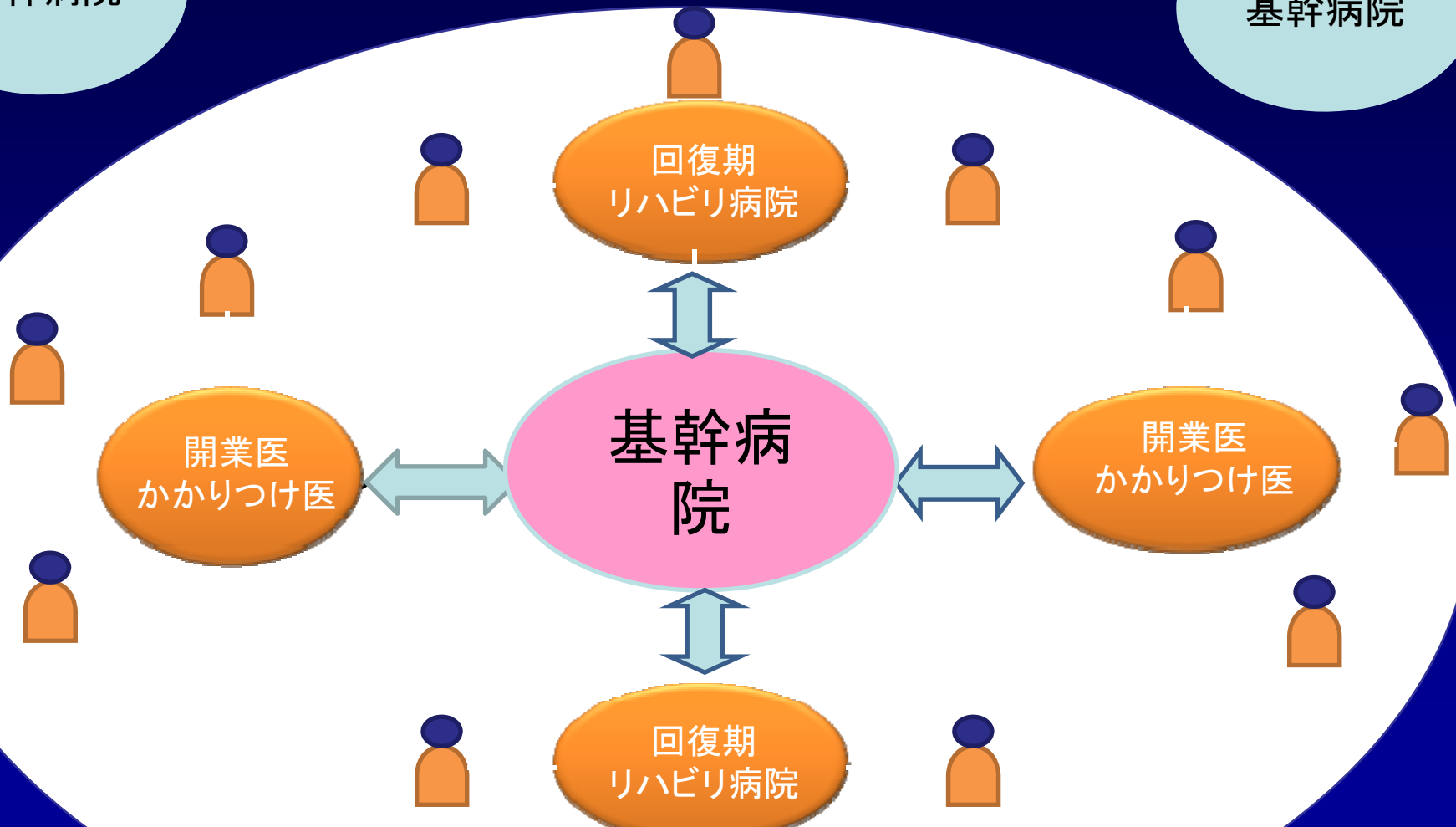


県の中央、平野部に位置し、人口; 35万人。
大学病院を含め急性期中核病院は5病院。

これまでの前橋医療圏での連携

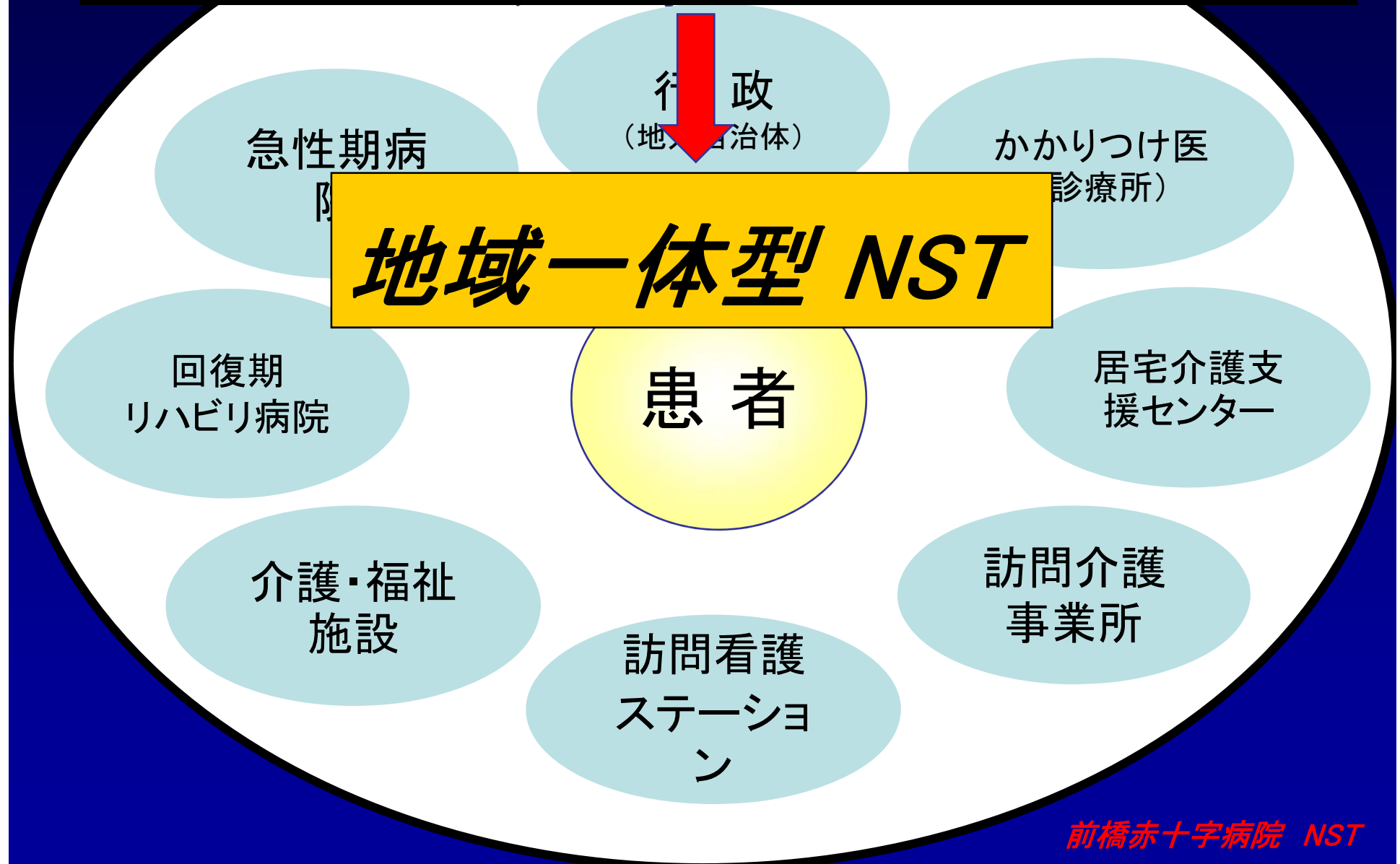
基幹病院

基幹病院



慢性期病院、開業医と連携し、囲い込むことにより
1人勝ちを目指していた？。

「前橋胃ろうネットワーク」



「前橋胃ろうネットワーク」(2008.7)

- 参加施設: 84施設

大学病院を含めた5つの急性期中核病院、
介護リハビリ病院、開業医、訪問看護ステーション、
ケアマネージャーなど。

- 施設別の役割・機能

- ・造設および緊急時対応: 6施設
- ・交換: 9施設
- ・夜間診療(訪問): 14(10)施設
- ・夜間訪問看護: 5施設
- ・摂食嚥下機能の評価・リハビリ: 8施設

「前橋胃ろうネットワーク」の取り組み

- 定期的な集まりを開催。
- 各施設への勉強会への自由参加。
- 機能や連絡先を明示したネットワーク図の作成。
- 緊急時に24時間対応可能な体制の整備。
- 地域連携クリティカルパスなど共通のツールを活用。
- 摂食嚥下障害の評価と訓練が可能な施設を指定。
- 可能な施設では、NST外来の設置や退院時ケアカンファレンスを開催。
- 患者や家族の意見を反映する機会(患者会など)を設定。
- 全患者を登録制とし、IT化などによるリアルタイムに患者状態を把握。
- ネットワーク内施設でのPEG回診
- 患者・介護者に対する教育、指導

前橋「胃ろう地域連携パス」

1. 一方向ステップ型ではなく、周期的回帰型（循環）型パス。
2. 造設、交換、転院、在宅ごとのフェーズパスとし、各々色分けし、一冊のファイルにした。
3. 各フェーズ別に栄養評価を含めたアウトカムを設定した。
4. 患者参加型パスとし、パスを医療者用と患者用に分け、患者や家族のセルフチェック項目を設けた。
5. 患者がファイルを常時携帯することとした。

患者・家人によるアセスメント (セルフチェック表)

胃瘻チェックシート(ご本人、ご家族用)			
日にち	/	/	/
胃瘻周囲が赤くなっていたり 腫れたりしていませんか	なし・あり	なし・あり	なし・あり
出血はないですか	なし・あり	なし・あり	なし・あり
ストッパーと皮膚との間にゆりみはありますか (毎日、バンパーをくるくる回しましょう)	なし・あり	なし・あり	なし・あり
胃瘻周囲から漏れていませんか	なし・あり	なし・あり	なし・あり
発熱や痰はありますか	なし・あり	なし・あり	なし・あり
お腹が張る感じはありますか	なし・あり	なし・あり	なし・あり
2回以上続けて水様性便が でますか	なし・あり	なし・あり	なし・あり
吐き気や嘔吐はありますか	なし・あり	なし・あり	なし・あり

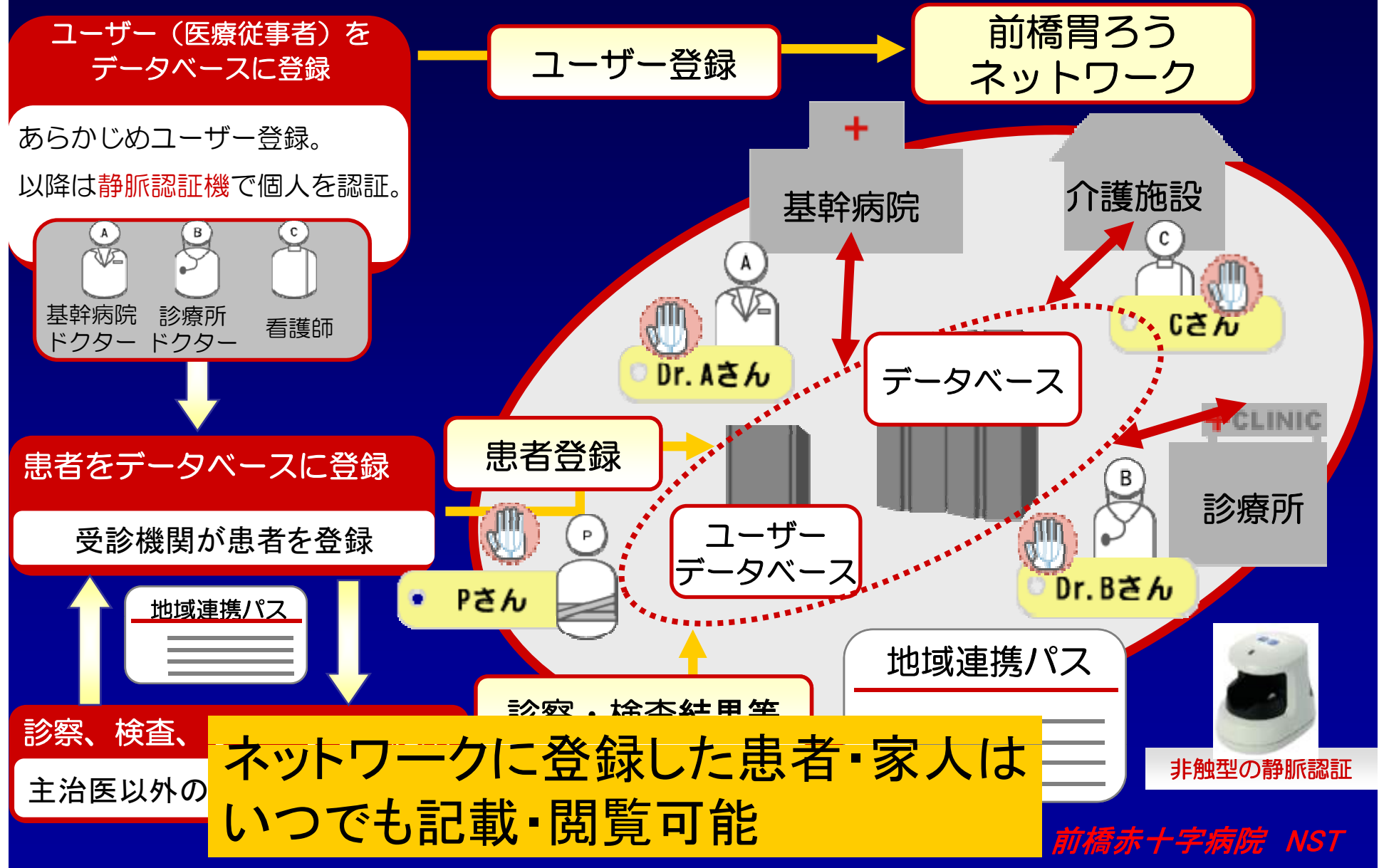
在宅に向けての患者・家人に対する指導

(在宅胃ろう患者と介護者は、医療技術者!?)

- **胃ろうやENによる合併症とその対処法。**
例;アセスメントシートに沿った観察と日常ケアの指導。
- **安全なEN投与の方法。**
例;体位の調整、滴下速度、半固形食の作成方法。
- **薬の注入方法。**
例;簡易懸濁法の方法の指導。
- **注入器具の取り扱い方法。**
例;特別な消毒は不要、水道水で洗浄し、自然乾燥させる。
- **口腔ケアや摂食機能療法の方法。**
例;口腔状態の観察ケアの方法、嚥下訓練やその必要性の指導。
- **日常生活動作の注意点。**
例;入浴など。

ITを活用した地域連携への試み

(前橋胃ろうネットワーク)



ITを用いた連携の有用性

- 情報の共有化、標準化が容易。
- 患者の状態をリアルタイムに把握でき、迅速で適切な診療が可能。
- 患者と家人がネットワークに直接参加し、情報・意見交換が容易。
- 患者と家人がネットワーク内にいる自覚と安心感が得られる(?)。
- 必要のない病院受診が減少する(?)。
- 嚥下障害, 認知症, 緩和医療, 褥瘡など他の疾患でも容易に活用。

「前橋胃ろうネットワーク」成功への課題

- 患者・地域住民

- 地域医療の現状を理解。

例；市民公開講座などへの参加

- 患者会の積極的な活動。

例；あけぼの会（乳がん）、赤城互療会（ストマ）

- 在宅患者

- 開業医（在宅療養支援療養所？）の積極的な参加。

- 訪問看護師の条件を改善。

訪問看護ステーションはほとんど赤字！？

- 医療行為（栄養剤の投与など）の職務権限を再考。

- 基幹病院

- 機能により対等に連携可能？

- 患者の希望・選択で偏りや不平等が生じないか？

「前橋胃ろうネットワーク」の目標

PDN広場

「皆が自由に集まり、おしゃべりし、
知恵を出し合い、情報を共有する広場」



PDN理事長 鈴木 裕先生